ブルーノ・タウトが設計した ベルリン市プレンツラウアーベルク地区の 集合住宅

田中 辰明

柚本 玲

お茶の水女子大学 名誉教授(生活環境教育研究センター) お茶の水女子大学 田中辰明研究室

はじめに

ベルリン市の中央部をミッテ(Mitte と呼ぶ。まさに中 央を意味する。ここにはペルガモン博物館、フンボルト 大学、ブランデンブルグ門、カール・フリードリッヒ・シ ンケル設計の劇場(Schauspielhaus),市庁舎等等歴史的 有名建築が建ち並ぶ。この地区に接した東北部をプレン ツラウアーベルク地区(Prenzlauer Berg と呼ぶ。ミッテ 地区、プレンツラウアーベルク地区は旧東ベルリンに含 まれていたので、復旧は大幅に遅れていたが、交通の便 のよさもあり、最近の復興は目覚しいものがある。プレ ンツラウアーベルク地区に1920年代にブルーノ・タウト が3つの住宅団地を設計している。実際にはこの地区に ブルーノ・タウトはカール・レギンの住宅団地も設計し ている。カール・レギンの住宅団地は2008年7月にユネ スコの世界文化遺産に指定された。従って本誌では2008 年12月号に「ユネスコの世界文化遺産に指定されたブルー ノ・タウト設計による住宅団地」というタイトルで報告を 行い、ここで紹介したので、今月号では省略した次第で ある。

シェーンランカー通りの集合住宅 Wohnanalage Schönlankerstra e "

ベルリン市には東京の山手線と似た環状線が走っている。山手線がベルリンの環状線を真似たという方が正しいであろう。この環状線のランデスベルガーアレー(Landesbergerallee という駅を降りて北西に500m程歩くと、この集合住宅に出会う。シェーンランカー通りの集合住宅として一般に呼ばれているが、現在シェーンランカー通りはエルンスト・フュルステンベルク通父 Ernst-Fürstenbergstra e と名前を変えている。住宅の平面はH型に構成され、一方をハインツ・バルチュ通父 Heinz

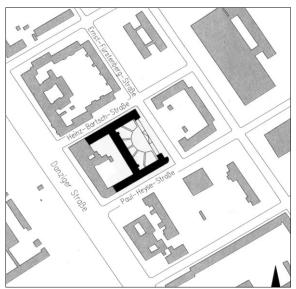


図 1 シェーンランカー通りの集合住宅配置図

Bartschstra e)、他方をパオル・ハイゼ通り Paul Heysestra e)に接している。建築主はベルリン市の住宅 供給公社ゲハーグ(GEHAG)でGSW(Gemeinnützige Siedlungs-und Wohnungsbaugesellschaft mbH: 団地・ 住宅共同利用会社)の所有になっている。122戸が入ってお り、1926年から1927年の間に建設された。当時は不良な 賃貸住宅が建っていた部分に、ブルーノ・タウトは集合 住宅ブロックを建設し、整備を行った。図1に敷地の配 置図を示す1)。住宅団地に接して教会があり、教会の尖 塔が集合住宅にアクセントを与えている。エルンスト・ フュルステンベルク通りの反対側には学校があり、これ を意識し、住宅団地はこれと対称となるような形で配置 されている。第二次世界大戦で破壊され、1951年から 1952年にかけて再建され、1958年から1959年にかけ ファッサードの補修が行われた。さらに1998年から1999 年にかけて記念建築物保全の修復が行われた。

ハインツ・バルチュ通り側の入り口、これを入ると階段室になっているのだが、階段室に自然採光を取り入れ



写真 1 シェーンランカー通りの集合住宅、パオル・ハイゼ通りとハインツ・バルチュ通りに建つ集合住宅を結ぶ棟と中庭



写真3 シェーンランカー通りの集合住宅、ハインツ・バルチュ通り 側の隣接する教会に繋がっている住棟、教会の尖塔がアクセントと なっている。

るためにガラス窓が採用されている。地上5階分のガラス窓は海老茶色に彩色された細長い壁に納められている。その左右は青い壁でここにも採光の窓ガラスが付いている。そして各階外に張り出した白色のバルコニーがあり、筆者が訪問した2009年4月にはどのバルコニーにも美しい花が咲いていた。エルンスト・フュルステンベルク通り側は白色の外壁に茶色のバルコニーがアクセントをつけていた。バルコニーそのものは建物の中に入ったもので寒地の建築で良く見られるものである。

写真1にパオル・ハイゼ通りとハインツ・バルチュ通りに建つ集合住宅を結ぶ棟の写真を示す。集合住宅の前に中庭がある。この反対側には同じ規模の学校の中庭があり中庭どうしが向かいあった格好になっている。写真2にハインツ・バルチュ通り側の住宅入り口、その上に展開する階段室並びに住棟から外部へ出た白いベランダを示す。写真3はハインツ・バルチュ通り側の住棟でこれは隣接する教会に繋がっている。写真4にパオル・ハイゼ通り側の外壁を示す。



写真 2 シェーンランカー通りの集合住宅、ハインツ・バルチュ通り側の住宅玄関、その上に展開する階段室並びに住棟から外部へ出た白いベランダ



写真 4 シェーンランカー通りの集合住宅、パオル・ハイゼ通り側の 住棟。 ゆるい円弧を描いている(中庭側から撮影)。

2. グレル通りの集合住宅 "Wohnanlage Grellstra e"

この住宅群はプレンツラウアーベルク地区(Prenzlauer Berg)の東北部、環状線のエルンスト・テールマンパルク

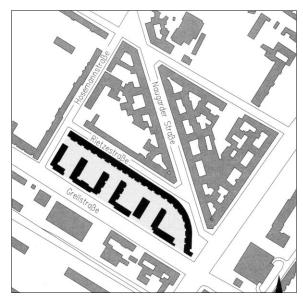


図 2 グレル通りの集合住宅配置図



写真5 グレル通りの集合住宅、リーツェ通り側の長い集合住宅で円弧を描いている部分を中庭側から撮影した外壁の窓

(Ernst-Thälmann- Park) 駅の北200mくらいのところにある。グレル通ば Grellstra e) ピリーツェ通ば Rietze stra e) ホーゼマン通ば Hosemannstra e) に囲まれた敷地に一部はコの字型、L字型、そして一部は曲線を描くような形で細長い集合住宅が広がっている。図2にこの集合住宅団地の配置図を示す」。1927年から1928年にかけて建設された。これはブルーノ・タウトとフランツ・ホフマン(Franz Hoffmann) との共同設計である。ブルーノ・タウトは1909年にベルリンでホフマンと共同の設計事務所を開設し、1933年に来日するまで続いていた。152戸の住居があり、建築主はゲハーグである。1970年に補修が行われ、左官工事、塗装が行われた。2001年から2005年にかけ記念建築物保全の修復が行われた。図3にこの集合住宅の住戸の平面図を示す」)。

ベルリンによく見られる集合住宅のタイプで住戸の後

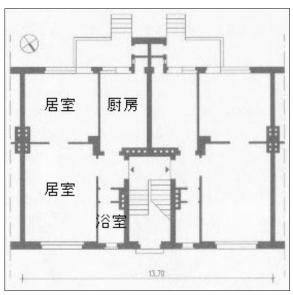


図3 グレル通りの集合住宅平面図



写真 6 グレル通りの集合住宅、グレル通り側に建つ"コ"の字型住宅の窓

るに庭を配している。19世紀の集合住宅として極めて近代的なもので、その流れを汲んでいる。写真5はリーツェ通り側の長い集合住宅で円弧を描いている部分を、中庭側から撮影したものである。写真6はグレル通り側に建つ"コ"の字型住宅の外壁の窓である。どの住宅も窓をうまく飾り、道行く人を楽しませている。写真7は集合住宅団地の敷地内に入り、"コ"の字のつなぎ部分外壁を撮影したものである。階段室窓枠は赤く、一般の窓枠は緑色に塗装されている。写真8はグレル通り側に建つ集合住宅の建物内に入り込んだバルコニーを撮影したものである。写真9はグレル通りに面する集合住宅とその中庭を撮影したものである。この集合住宅団地は最初から細長い敷地で、多くの住戸を入れるには条件が悪かった。ここに日照も確保しつつ、通風にも配慮して、かつ緑を確保する住宅の位置に夕ウトは苦慮したそうである。



写真 7 グレル通りの集合住宅、集合住宅団地の敷地内の"コ"の字のつなぎ部分外壁



写真8 グレル通りの集合住宅、建物内に入り込んだバルコニー

3 . オリヴァー通りの集合住宅 "Wohnanlage Olivaerstra e"

これはこの項の1で紹介したシェーンランカー通りの 集合住宅"Wohnanalage Schönlankerstra e"に近接して 建てられている。ルディ・アルント通(Rudi-Arndtstra e) とコンラッドブレンケレ通(Conrad-Blenklestra e)に 面して建っており120戸の住戸がある。建築主はゲハーグ である。1950年に再建されたもので1990年に道路側の ファッサードが修復された。ルディ・アルント通りに 沿った長い敷地しかなく、集合住宅の配置計画として苦 慮したそうである。敷地の配置図を図4に示す¹)。また



写真 9 グレル通りの集合住宅中庭

階段室を境いとした住宅の平面図を図5に示す¹)。これが1室半の住居の典型的な例である。1住居の幅が66m、奥行きが12mと広くは無い住居である。写真10にルディ・アルント通りとコンラッドブレンケレ通りの角の外壁を示す。丁度1階にアジアの食品を販売する商店が入居している。写真11、写真12はルディ・アルント通り側の集合住宅を中庭側から撮影したものである。1926年から1927年にかけ建設された当時としては上級の労働者住宅であった。

謝 辞 この調査に同行して頂き、適切なアドバイスを頂いたGerd Sowitzkat氏に深甚なる謝意を表す。この調査研究を行うに当たり、平成20年度個別研究助成(財団法人日本生命財団)、平成20年度科学研究費補助金(課題番号20700575)、ECO HOUSE株式会社より研究助成金を得た。記して謝意を表す。

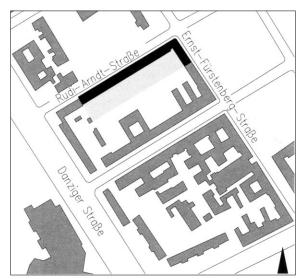


図 4 オリヴァー通りの集合住宅配置図

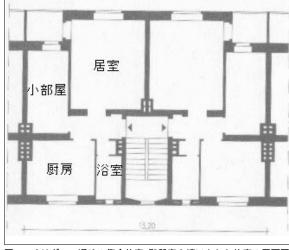


図 5 オリヴァー通りの集合住宅、階段室を境いとした住宅の平面図



写真 10 オリヴァー通りの集合住宅、ルディ・アルント通りとコン ラッドプレンケレ通りの角の外壁



写真 11 オリヴァー通りの集合住宅、ルディ・アルント通り側の中 庭から撮影



写真 12 オリヴァー通りの集合住宅、ルディ・アルント通り側の中庭から撮影

<参考文献>

- 1)Winfred Brenne: Bruno Taut Meister des farbigen Bauens in Berlin: Deutscher werkbund Berlin e V (Hg .)(2005)
- 2) ブルーノ・タウト著, 篠田英雄訳: 日本タウトの日記: 岩波書店 (1975)
- 3)田中辰明, 柚本玲: ブルーノ・タウト設計による円形住宅「チーズカバー」: 建築仕上技術: Vol 34, No 403(2009/2) p 49-53
- 4)田中辰明,平山禎久,柚本玲:ブルーノ・タウド(Bruno Taut)の作品と建築設備の変遷:空気調和・衛生会論文集:No 136(2008) p 1-5
- 5) 柚本玲,平山禎久,田中辰明:41646:ブルーノ・タウトが設計 した住宅の暖房設備に関する調査研究:2008年度日本建築学会学 術講演会(2008/9) p.1327-1328
- 6)田中辰明, 柚本玲: ユネスコの世界文化遺産に指定されたベルリンのブルーノ・タウト設計による住宅団地: 建築仕上技術: Vol 34, No 401(2008/12) p 49-54
- 7)田中辰明:建築家マックス・タウトの業績と生涯:建築仕上技術: Vol 34, No 400(2008/11) p76-81
- 8) ワタリウム美術館編集 ,Manfred Speidel: ブルーノ・タウト 桂離宮とユートピア建築: オクタープ(2007/05)
- 9)水原徳言:Bruno Taut年表:群馬県工業試験場(1987/6/1)
- 10) Annete Menting Max Taut Das Gesamtwerk DVA:Deutsche Verlags-Anstalt GmbH(2003)
- 11) Manfred Speidel: Ich liebe die japanische Kultur: Gebr . Mann Verlag Berlin(2004)
- 12) Ausstellung der Akademie der Künste vom 29 .Juni bis 3 . August 1980 'Bruno Taut(1880-1938)